

大腸がんの死亡率の高い要因についての意見

<背景>

前回の沖縄県がん診療連携協議会にて、有識者委員より国立がん研究センターが調査した『都道府県別死亡データ 部位別 75歳未満年齢調整死亡率（1995年～2012年）』に関する情報提供がありました。

<検討事項>

沖縄県では大腸がんと子宮がんが死亡率の高いことが報告され、今後の対策を立案する上で死亡率の高い要因について、実際に診療に携わる先生方のご意見を伺いたいと要望があったため、大腸がんWG（大腸がん地域連携パスを作成した5施設：北部地区医師会病院・那覇市立病院・豊見城中央病院・中頭病院・琉大病院・）に意見を求めたところ、以下の回答がありました。

【実際に診療に携わっている医師からの意見】

- ① 検診率の低さ（便検査）
- ② 検診異常後の精査が未検査率が高い
- ③ 実臨床では手術不能なステージⅣ症例が毎年、ある一定数認めるのは上記理由かと
- ④ 食生活の誘因（高脂肪食多く、繊維食が少ないなど）
- ⑤ 肥満などの生活習慣病罹患者や予備群患者の多さ